

【 パ ッ ケ ー ジ ソ フ ト 】

セル市場 9 月 度 レ ポ ー ト

◆————◆
< 2011 年 10 月 15 日 >

『スター・ウォーズ』の一本かぶりの9月は、
今年最低の市況に

KRI 

キネマ旬報映画総合研究所

セル市場 9月度レポート

【初BD化の『スター・ウォーズ』が、話題も売上も独占】

9月のマーケットは、『スター・ウォーズ コンプリート・サーガ ブルーレイBOX』に尽きる。「全世界待望の初ブルーレイ化」という発売元20世紀フォックス ホーム エンターテイメント ジャパンの言葉を借りるまでもなく、各販売店もECサイトもこのBIGタイトルを最大級の取り組みで迎えた。希望小売価格1万7325円の高額商材だが、有力小売店は横並びで9月いっぱい25%OFFセールを実施して購買欲を煽った。同作以外、映画作品にも音楽作品にも市場をリードするタイトルが極端に少なかったこともあって、各販売店の9月レポートも『スター・ウォーズ』の話題に終始した。

調査会社GfK Japanの9月度集計（8月29日～9月25日）＝販売数量ベースに見ると、『スター・ウォーズ コンプリート・サーガ ブルーレイBOX』は、10万4418枚を売り上げダントツのトップ。2位『魔法少女まどか☆マギカ6【完全生産限定版】』BDに倍近い差をつけた。参考までに「エピソード4」～「6」を収めた『～ オリジナル・トリロジー ブルーレイBOX』は2712枚で141位、「エピソード1」～「3」の『～ プリクエル・トリロジー ブルーレイBOX』は2456枚で163位に入っている。「『スター・ウォーズ』ならすべて買う、という購買者だと思う。実際当店でも3BOXとも予約して買って帰った人がいる」と解説してくれた販売店の分析が的を射ているといえそうだ。

【『スター・ウォーズ』以外のタイトルが弱く、全体では厳しい市況に】

『スター・ウォーズ』に続くランキング上位は、今月も“定番”のTVアニメシリーズが並ぶ。2位に“まどマギ6”BD、3位に『TIGER&BUNNY（タイガー＆バニー）5初回限定版』BD、5位『IS〈インフィニット・ストラトス〉第6巻』BD、6位『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。4【初回生産限定版】』BD、7位『STEINS;GATE Vol.4【初回限定版】』BD。8位には映画作品のアニメ『蒼穹のファフナー HEAVEN AND EARTH【初回限定版】』BDが顔を出す。10位『とある魔術の禁書目録Ⅱ 第8巻Blu-ray〈初回限定版〉』、14位『銀魂'03【完全生産限定版】』DVDと続く。ちなみに「邦TVアニメ」ジャンル作品は、トップ10中6 SKU（商材のこと。同一タイトルでも品番違いのBDとDVDは2SKUとなる）、100位中21SKU、300位中47SKUを占める。幅広く「アニメ」ジャンルで捉えると、GfKトップ300のうち74SKUがこのジャンルで、販売数量は37万7808枚、シェア29.6%となった。

映画作品は、『スター・ウォーズ』以外目立ったタイトルに欠けた。当月発売の洋画では『ブラック・スワン 3枚組みブルーレイ&DVD&デジタルコピー（ブルーレイケース）』が4位に、『同（DVDケース）』が18位に、『同 デラックスBOX [5000BOX数量限定]』が115位に入り、トータル3万枚強でトップ。続いて1万9000枚強を販売した『英国王のスピーチ』が、DVD13位、BD25位。キャンペーン作品を除くと次にランクされるのが30位『地獄の黙示録 3Discコレクターズ・エディション 初回限定生産』。フランシス・フォード・コッポラが、ベトナム戦争を舞台に戦争の狂気と混乱を描き出した79年製作の名作で、こちらも初のBD化が映画ファンに訴求した。邦画はさらに弱く、100位に入ったのは8月26日発売の『SP 革命篇 DVD』のみで、通常版が24位、特別版が47位。GfK300位までに、「洋画」ジャンルは『スター・ウォーズ』、廉価キャンペーンタイトルを含めて、90SKU、42万枚強の販売数量となり、「邦画」ジャンルはわずか14SKU、4

万3413枚にとどまった。

このところ市場をリードしてきた感がある音楽作品も、9月は乏しかった。このジャンルのトップが、6月発売の『AKB48／AKBがいっぱい～ザ・ベスト・ミュージックビデオ～』DVDで11位ということからも、パワー不足が見て取れる。当月発売では、12位の『TOKIO／OVER／PLUS【初回限定盤】』DVD、16位『Dragon Ash／MIXTURE DVD-VIDEO MIX&DOCUMENT-』DVD、21位『東京事変／CS Channel』DVDが上位3作品。洋楽も含め「音楽」ジャンルは、300位に62SKUがランクインし、販売数は24万3600枚となった。またお笑いなど「その他」ジャンルでは、『ナインティナイン／99 LIVE BOX』DVDが9999セット限定発売商品ながら、9935枚を販売し17位に入った。後述する販売店レポートで上位にランクされた『アメトーーク』は、集計期間の関係でGfKのチャートでは次月に回っている。

一言でいえば『スター・ウォーズ』の月となった9月。GfK上位300タイトルに占める数量シェアは8.6%だが、単価を考えれば売上への貢献度は図抜けている。とはいえ一本かぶりでは全体の売上を支えるのは重荷だ。GfK上位300タイトルの販売数量を月次で比較すると、9月期は今年に入って最低。前年同月比80.4%の127万5613枚にとどまった。また『スター・ウォーズ』一本かぶりは、結果的にこの月のBDのシェアを大きく上げることにもつながった。GfK上位300タイトルの総販売数に占めるBDの販売数（BD+DVDのコンボ作品も含んでカウント）シェアは、1月から順に、15.6%、18.7%、15.5%、23.3%、26.8%、26.3%、28.5%、35.8%。少しずつ、確実に伸ばしてきてはいたが、9月は一気に40%台を記録した。

【『スター・ウォーズ』の売上が販売店の9月成績に直結】

各販売店の9月度の状況も、GfKチャートに表れた『スター・ウォーズ』一本かぶりの市況を裏打ちしている。同作以外の映像作品が弱く、またCDにもリード作品が不足したこともあり、『スター・ウォーズ』の結果が、各販売店の実績を分けた。

CD & DVD販売店A社——9月はアイテム的にも厳しく、また月初の台風の影響もあって需要が冷え込んだ。映像は対前年80%台半ば。『スター・ウォーズ』は順当に売れ、2位に倍以上差をつける抜けたトップになった。2位に『アメトーーク！ DVD⑰』4位に『～⑱』が入ったが、前作に比べて特別売れているわけではなく、他が弱いため上位に来た印象。3位には『ナイト&デイ〈エキサイティング・バージョン〉』が、5位には『食べて、祈って、恋をして ダブル・フィーチャーズ・エディション』が入るなど、当月発売の映画作品を押しつけて廉価キャンペーン作品が健闘した。

CD & DVD販売店B社——『スター・ウォーズ』のみ。期待値はもう少し上だったが、高価格のBOXとしてはがんばって売ったといえる。一部店舗では品薄になる売れ行き。2位『英国王のスピーチ』、3位『ブラック・スワン』も堅調な販売状況。初速の勢いこそ物足りないものだったが、2週目以降も売れ続けている。TOKIOはパワー不足。ヒット曲の有無がDVDの販売数に直結するジャニーズとしては異質なアーティストで、結果もその通りに。映像は前年の8掛け程度という厳しい月になった。

CD & DVD販売店C社——BDのBOXということで、『スター・ウォーズ』は販売数をやや低

く見積もっていたが、その計画を上回る結果になった。『ブラック・スワン』は金額ベースではそこそこ貢献してくれたが、数量で見るとベストテンにも入らない。“どれでも3枚3000円”をばらして1枚1000円で販売する“カタログキャンペーン”を実施したこともあって、廉価キャンペーン作品が上位を占めた。ベストテンにランクインした当月タイトルが、1位『スター・ウォーズ』と8位『TOKIO／OVER／PLUS【初回限定盤】』のみの状況で、音楽を除いた映像の前年比96%は上出来。

CD & DVD販売店D社——『スター・ウォーズ』は、発売2週目の落ち込みをいかに少なくするかという仕掛けが奏功し、通常の当社シェアを大きく上回ることができた。その結果、映像の売上は前年をクリア出来た。しかし本当にこれだけ。2位、3位、5位に『アメトーーク』の⑰、⑱、⑲が、4位には『ナインティナイン／99 LIVE BOX』が、商品戦略がうまくいきランクイン。映画作品は、6位の『食べて、祈って、恋をして～』以下、廉価キャンペーンが上位を占め、当月新作の『ブラック・スワン』『英国王のスピーチ』はベストテン圏外という有様だ。特筆は9位『ゴシップガール〈ファースト〉』の廉価セット。“どれでも3枚3000円”に入れることが出来、爆発した。女性層は価格にシビアになっている。

家電量販店E社——売上では『スター・ウォーズ』の大きなインパクトに尽きる。ほぼ当社の持っているシェアどおりの結果となっている。2位、4位、5位に『アメトーーク』の⑰、⑱、⑲が入り、『ブラック・スワン』が3位。元々強かったアニメ商材がベスト5に入っていない。マニア心に応える部分も、値段の提案も中途半端になってしまっていて、このジャンルが当社の柱になっていない現実はさびしい限り。BDの2枚2980円は着実に伸びてきているものの、DVDのどれでも3枚2980円の売上鈍化が顕著になってきた。もっともっとBDを伸ばしていくべく家電売場との連携を深めていきたい。

家電量販店F社——9月は『スター・ウォーズ』の印象しかない。25%オフにポイント還元も含めれば、ECサイトの値引きに対抗できる値付けができた。店もお客も“お祭り”として盛り上がり、結果に結びついた。それ以外では、『魔法少女まどか☆マギカ』『IS <インフィニット・ストラトス>』『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』などのシリーズアニメの新作が、例月のことながら9月も売上を底支えしてくれた。『ブラック・スワン』『英国王のスピーチ』は、“アカデミー特集”を組んだ店舗もあり、年齢の高い層に刺さったようだ。『アメトーーク』も堅調だった。

ECサイトG社——とにかく『スター・ウォーズ』。8ヵ月という異例の長期予約期間を、予約開始→発売日決定→ジャケットイメージの公開→特典発表と、情報を順次オープンにしながらお客様の興味を持続させ、その度に予約を伸ばしていった。超強力作品の初BD化、豪華商品仕様とお値打ちな価格設定、メーカーの見事なプロモーション戦略が、最高の結果をもたらした。まさに大成功。まだまだBD化が待たれる作品は多いので、今回の成功をお手本にメーカー各社にはBDカタログのさらなる充実をお願いしたい。